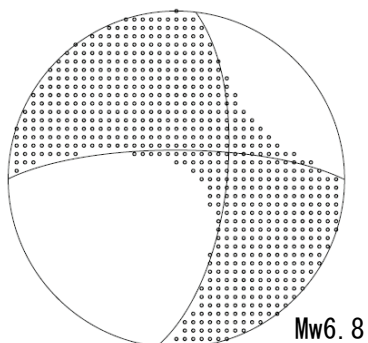


11月11日 ミャンマーの地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

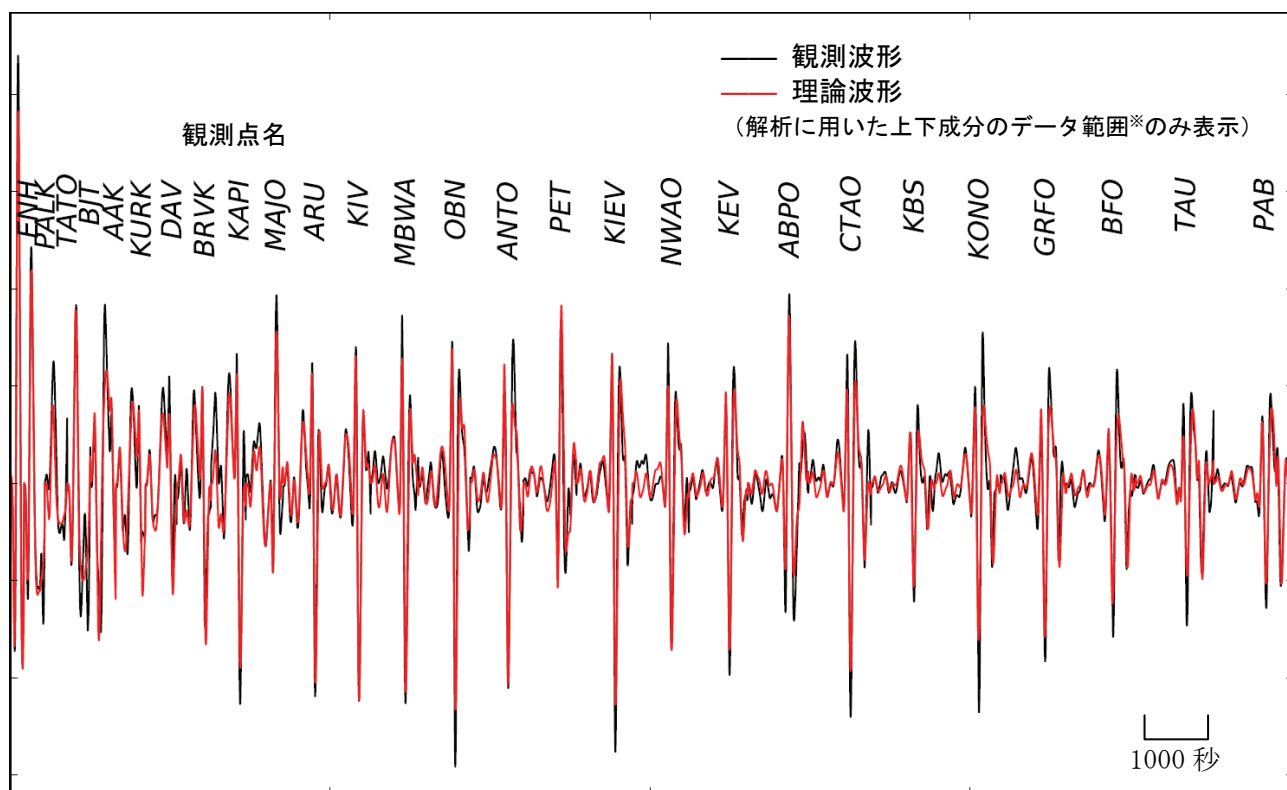
W-phase による解



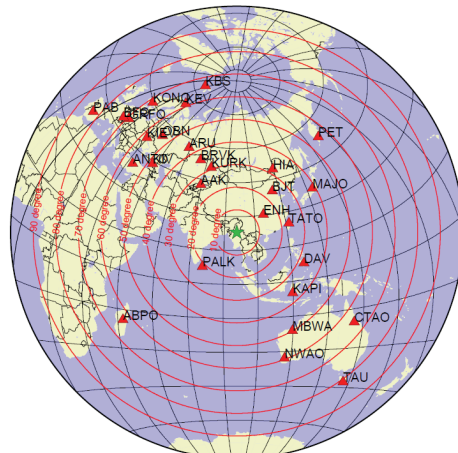
2012年11月11日10時12分(日本時間)にミャンマーで発生した地震についてW-phaseを用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは6.8であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はN22.9°, E95.9°, 深さ16kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの27観測点の上下成分、3観測点の東西成分、2観測点の南北成分を用い、100~500秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。

気象庁作成